



日本証券業協会
Japan Securities Dealers Association

資料 2

「SDGs宣言」について

平成30年3月20日
日本証券業協会



概要・目的

- 平成29年7月に策定された日証協の「当面の主要課題」においては、証券界の社会的な課題への取組みとしてSDGsへの取組みが掲げられ、同年9月には「証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会」及び下部分科会が設置された。
- 懇談会等において検討される具体的な方策については平成30事業年度以降本格的に取り組む予定であることから、新年度のスタートに向け、改めて**日証協のSDGs推進に関する明確なコミットメントを国内外に表明する**ため、「SDGs宣言」を行う。
- 「SDGs宣言」の公表により、証券業界のSDGs推進に向けた姿勢や取組みについて、**より一層「見える化」**し、社会における**認知度向上**を図る。
- 日証協及び会員の役職員、**一人ひとりの当事者意識を高め**、SDGs推進に向けた取組みをより強固なものとする。
- 日証協は、会員の全ての役職員へ「SDGsバッジ」を配付し、SDGs推進に向けた取組みへのご理解・ご協力をお願いする。

日本証券業協会は、国際連合が提唱する国際社会全体の目標であるSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、証券業自らも持続的な成長を目指し、次の通り宣言いたします。

1. 貧困、飢餓をなくし地球環境を守る取組み

- 証券市場が有する資金調達・供給機能等を通じて、社会課題の解決を目指します。

2. 働き方改革そして女性活躍支援を図る取組み

- ワーク・ライフ・バランスの推進等を通じて、働きがいのある職場づくりを目指します。

3. 社会的弱者への教育支援に関する取組み

- 様々な環境に置かれている子ども達への支援等を通じて、あらゆる機会を平等に与えられる社会の実現を目指します。

4. SDGsの認知度及び理解度の向上に関する取組み

- 本協会及び会員証券会社の役職員のSDGsに関する当事者意識を高めるとともに、国内外におけるSDGsに対する認知度及び理解度の向上を目指します。

The Japan Securities Dealers Association(JSDA) resolves to work on the following initiatives. Doing this will contribute to achieving the Sustainable Development Goals (SDGs) set by the United Nations as a global agenda, seeking as well the sustainable growth of the securities industry.

1. Initiatives to end poverty/starvation and protect the global environment

- We aim to resolve social challenges through fund raising and provision functions of the securities market.

2. Initiatives to promote decent working conditions and women's participation in society

- We aim to create a working environment with high job satisfaction by improving the work-life balance.

3. Initiatives to support education for the socially vulnerable

- We aim to realize a society that ensures equal opportunity for everyone by supporting children living under trying circumstances.

4. Initiatives to improve the awareness and understanding of SDGs

- We aim to improve the awareness and understanding of SDGs in Japan and overseas, while raising the sense of ownership over SDGs among executives and employees of the JSDA and our members.

参 考

SDGs推進に関する日証協の 取組みについて

平成30年3月22日
日本証券業協会



1. 証券業界におけるSDGs推進に向けた取組み

1. 日証協の「当面の主要課題」として証券業界としてSDGsへ取り組むことを決定
(平成29年7月)
2. 「証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会」等における検討
 - ・ 証券業界全体でSDGsの推進に取り組むため、本協会長の諮問機関として「証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会」、また下部に具体的検討を行う3つの分科会を設置(平成29年9月19日)
 - ① 「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」
 - ② 「働き方改革そして女性活躍支援分科会」
 - ③ 「社会的弱者への教育支援に関する分科会」
3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み
 - ① グリーンボンド・セミナー(平成29年11月2日 於 東京)
 - ② アジア証券人フォーラム(ASF)年次総会(平成29年11月26日～28日 於 東京)
 - ③ 日本証券サミット(平成30年2月7日 於 米国ニューヨーク)
4. SDGsの認知度向上に向けた取組み
 - ・ 会員(証券会社)役職員一人ひとりが、SDGsを理解し、自分事化して捉えるよう、「SDGsバッジ」やリーフレットを配付(平成29年9月以降)

SDGsバッジ



「SDGsバッジ」は、国際連合が作成したアイコン(17の目標それぞれを17色で表したアイコン)をバッジにしたものです。

2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会

SDGsで掲げられている社会的な課題に積極的に取り組んでいくため、本協会会長の諮問機関として『証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会』を設置(平成29年9月19日)

証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会 座長: 日本証券業協会会長 / 構成: 有識者及び協会員

貧困、飢餓をなくし 地球環境を守る分科会

- インパクト・インベストメント(ワクチン債、ウオーターボンド、グリーンボンド等の組成・販売など)やESG投資など
- さらに貢献できる可能性について検討

◆想定される目標



働き方改革そして 女性活躍支援分科会

- 生産性の向上や働きがいのある職場環境の整備、女性雇用の推進、女性管理職の育成など
- 証券業界における生産的な雇用とディーセント・ワークの達成について検討

◆想定される目標



社会的弱者への 教育支援に関する分科会

- 父子家庭、母子家庭、両親のいない子供等への資金援助、ボランティアなどについて
- さらに具体的な活動について検討

◆想定される目標



2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会

○ 開催状況について

第1回 (平成29年10月10日)	・誰も置き去りにしない！世界の共通言語 SDGsを自分事化して、世界を変革する 【ゲストスピーカー】 国際連合広報センター所長 根本かおる氏 ＊根本氏より、SDGs策定までの経緯、SDGsの精神、世界や日本におけるSDGs推進の動き等についての講演が行われた。
第2回 (平成30年3月20日)	1. 下部分科会の検討状況について 2. 「SDGs宣言」について 3. その他

○ 第1回懇談会における主な意見

- 資本市場を経由したSDGsへの貢献は、全産業のSDGsへの貢献にも影響を与えうる。
- SDGsは、証券業界がESG投資の促進等を通じて貢献できることから、証券業界との親和性が非常に高い。
- SDGsについて考えることは、資本市場や証券業界の社会的意義を自覚することにつながり、協会員の役職員のモチベーション向上に寄与する。さらに、これらを通じて生産性等も向上すれば、経営的にも良い影響をもたらすだろう。
- 働き方改革や女性活躍の促進について、資本市場の観点からアプローチできると望ましい。

○ 今後の方針

- 各分科会の検討状況を踏まえ、具体的な方策についての意見交換等を行う。

2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会



証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会メンバー

座長

鈴木 茂晴（日本証券業協会 会長）

会員委員

安藤 敏行（安藤証券 代表取締役社長）

石井 登（立花証券 代表取締役社長）

石田 建昭（東海東京証券 代表取締役会長CEO）

出田 信行（大熊本証券 代表取締役社長）

今泉 泰彦（みずほ証券 取締役会長）

北尾 吉孝（SBI証券 代表取締役会長）

久保 哲也（SMBC日興証券 代表取締役会長）

斎藤 聖美（ジェイ・ボンド東短証券 代表取締役社長）

新芝 宏之（岡三証券グループ 代表取締役社長）

杉崎 重光（ゴールドマン・サックス証券 副会長）

田代 桂子（大和証券 専務取締役）

豊泉 俊郎（三菱UFJモルガン・スタンレー証券 副会長）

鳥海智絵（野村ホールディングス 執行役員）

中村善二（UBS証券 代表取締役社長）

橋本幸子（モルガン・スタンレー-MUFG証券 取締役）

林礼子（メリルリンチ日本証券 取締役）

半場裕章（東洋証券 代表取締役会長）

日比野隆司（大和証券 代表取締役会長）

フィリップ・アヴリル（BNPパリバ証券 代表取締役会長）

松本大（マネックス証券 取締役社長）

森田英子（BNPパリバ証券 取締役）

森田敏夫（野村証券 取締役兼代表執行役社長）

吉原康夫（高木証券 代表取締役会長）

公益委員

川村 雄介（大和総研 副理事長）

白河 桃子（相模女子大学客員教授 ジャーナリスト）

以上 26 名（五十音順・敬称略）

2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会

① 「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」

○ 開催状況について

第1回 (平成29年11月1日)	・ESG投資、グリーンボンド、ソーシャルボンドの動向等について 1)持続可能な金融の最新動向 ICMA(国際資本市場協会) 会長 ルネ・カーセンティ氏 2)低炭素経済への移行へ向けたグリーンファイナンス・投資の拡大 OECD(経済協力開発機構) 事務次長 河野 正道 氏
第2回 (平成29年12月12日)	1. SDGsに関連する途上国の課題とJICAの取組み 【ゲストスピーカー】独立行政法人国際協力機構 小田 亜紀子氏、田中 聡子氏 2. 本分科会における検討の進め方
第3回 (平成30年2月16日)	1. グリーンボンド支援施策について 【スピーカー】環境省 大臣官房 環境経済課 課長補佐 永田 綾 氏 2. 社会貢献型債券(SRI債)市場の現状と今後の課題 【スピーカー】大和証券 デット・キャピタルマーケット部 次長 徳田 健 氏 3. 現状把握・課題洗出しのための分科会委員宛てアンケート(案)について

○ 主に検討された内容

- 日本のESG投資、インパクト・インベストメント等の規模は海外(特に欧州)と比べ非常に小さく、認知度・理解度も低い現状
- インパクト・インベストメントに係る基準(ICMAのグリーンボンド原則等)の位置づけや各国における対応の違い
- 投資家や発行体にとってのメリットの所在

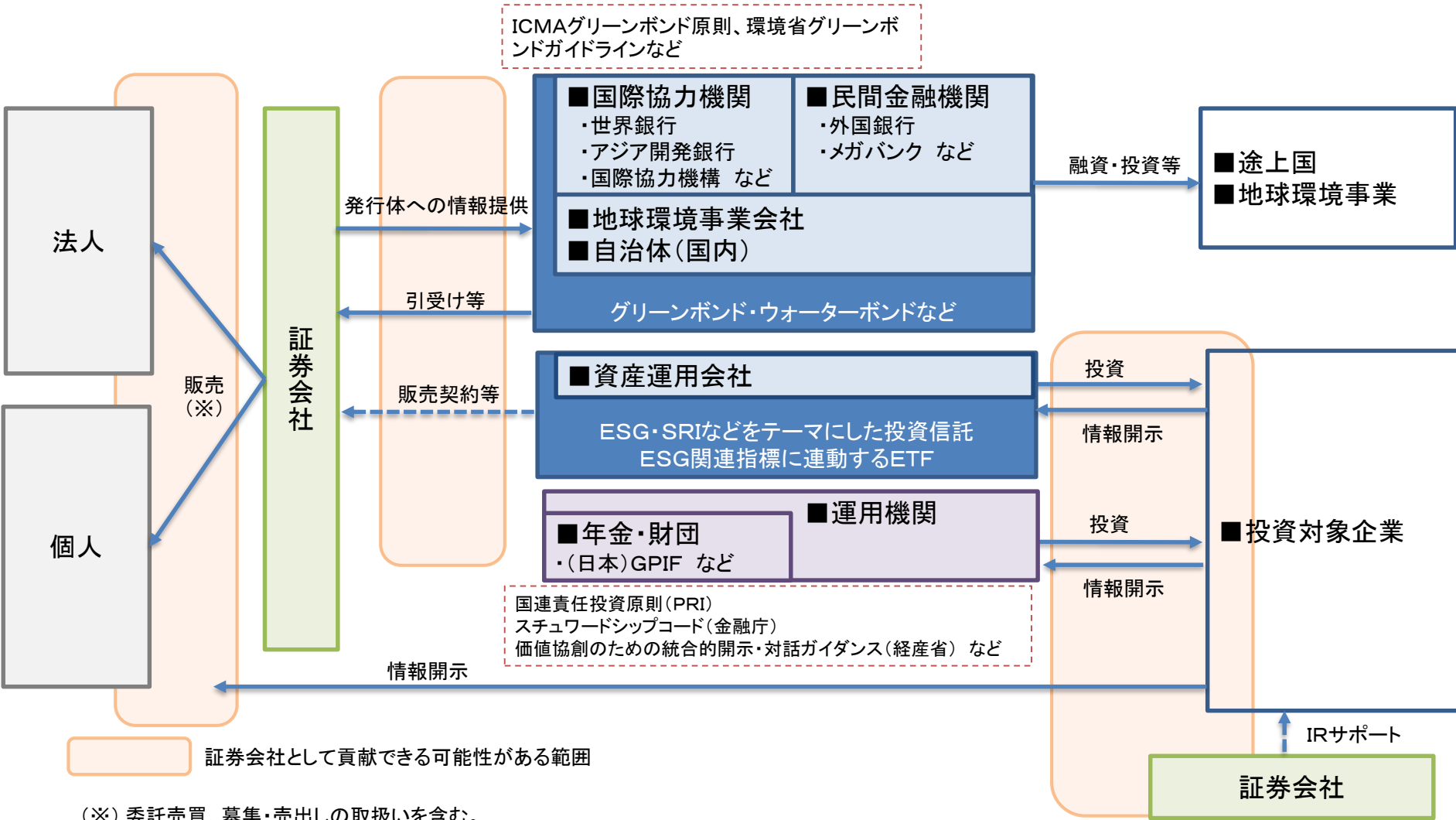
○ 今後の方針

- 日本におけるインパクト・インベストメント等の普及・促進に向けた取組みについて検討する。
- 現状及び課題の把握のため、本分科会メンバー宛てにアンケートを実施(～3月5日)
⇒第4回会合(4月13日)以降、アンケート結果をもとに具体的方策の検討を行う予定

2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会
①「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」

【参考】社会的課題解決に向けた証券会社の取組みと役割

第2回「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」資料



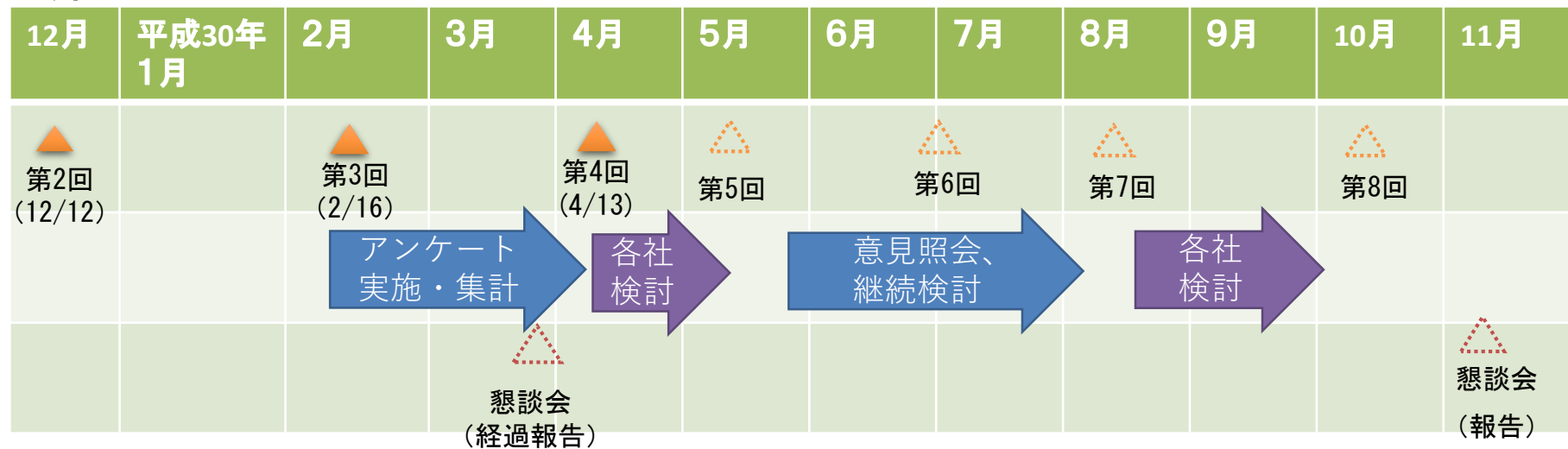
(※) 委託売買、募集・売出しの取扱いを含む。

2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会

① 「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」



今後のスケジュールについて



開催予定	議事、検討事項(予定)
第2回(平成29年12月12日)	・SDGsに関連する課題、現状【ゲストスピーカー】 ・本分科会における検討の進め方
第3回(平成30年2月16日)	・グリーンボンド支援施策について【ゲストスピーカー】 ・社会貢献型債券(SRI債)市場の現状と今後の課題【ゲストスピーカー】 ・現状把握・課題洗い出しのための分科会委員宛てアンケート(案)について
第4回(平成30年4月13日)	・アンケート結果報告 ・本分科会における検討対象とする課題及び対応方針(案)について
第5回、第6回(平成30年5月以降)	・本分科会における検討対象とする課題及び対応方針(案)について ・その他(検討経過を踏まえたトピック等)
第7回、第8回(平成30年夏以降)	・懇談会への報告(案)について

2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会 ①「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」

【参考】貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会メンバー

主査

荻野明彦（大和証券 常務執行役員）

委員

石川尚志（いちよし証券 取締役）

植木博士（ゴールドマン・サックス証券 政府関連担当部長）

魚津亨（水戸証券 取締役副社長）

小川裕之（SBI証券 取締役経営企画部長）

沖津嘉昭（岩井コスモ証券 代表取締役会長）

金森裕三（みずほ証券 常務執行役員プロダクト本部長）

河口真理子（大和総研主席研究員）

後藤匡洋（野村證券 執行役員）

朔慶典（UBS証券 上席執行役員）

高橋義信（東海東京証券 執行役員）

泊健一（徳島合同証券 代表取締役社長）

豊永聡（岡三証券 上席執行役員）

中村春雄（三菱UFJモルガン・スタンレー証券 副社長）

野津和博（SMBC日興証券 執行役員）

林礼子（メリルリンチ日本証券 取締役）

深澤歩（BNPパリバ証券 グローバルマーケット統括本部長）

萬代克樹（マネックス証券 取締役常務執行役員）

森田亮平（バークレイズ証券 シンジケーション本部長）

和里田聰（松井証券 常務取締役）

以上 20 名（五十音順・敬称略）

2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会 ②「働き方改革そして女性活躍支援分科会」

○ 開催状況について

第1回 (平成29年12月18日)	・メンバー会社による取組事例の紹介(野村証券・大和証券) ・全社へのアンケート調査(案)について
第2回 (平成30年2月27日)	・メンバー会社(東海東京証券、岡三証券、むさし証券)による取組事例の紹介

○ 主な取組事例及び課題等

- 女性活躍支援のための取組み
(例)内部組織や各種制度(育児支援等)の整備／女性向けキャリア研修やロールモデルの提示／採用強化／営業店における育児環境に合わせた職務を限定した勤務形態の導入
- 働き方改革に関する取組み
(例)定時退社制度／有給休暇取得促進／復職制度の新設／場所を問わず働ける制度
- 生産性向上に向けた取組み
(例)業務内容の見える化、IT導入、社員の専門性の向上(教育プログラム提供等)
- 介護に対する支援の充実
- 長期労働時間是正には社員のモチベーション向上を図る方策が必要
(例) 残業時間削減率に応じた給与の上乗せ
- 制度を活用できる風土作りや社員の意識改革が必要
- トップのコミットメントが重要

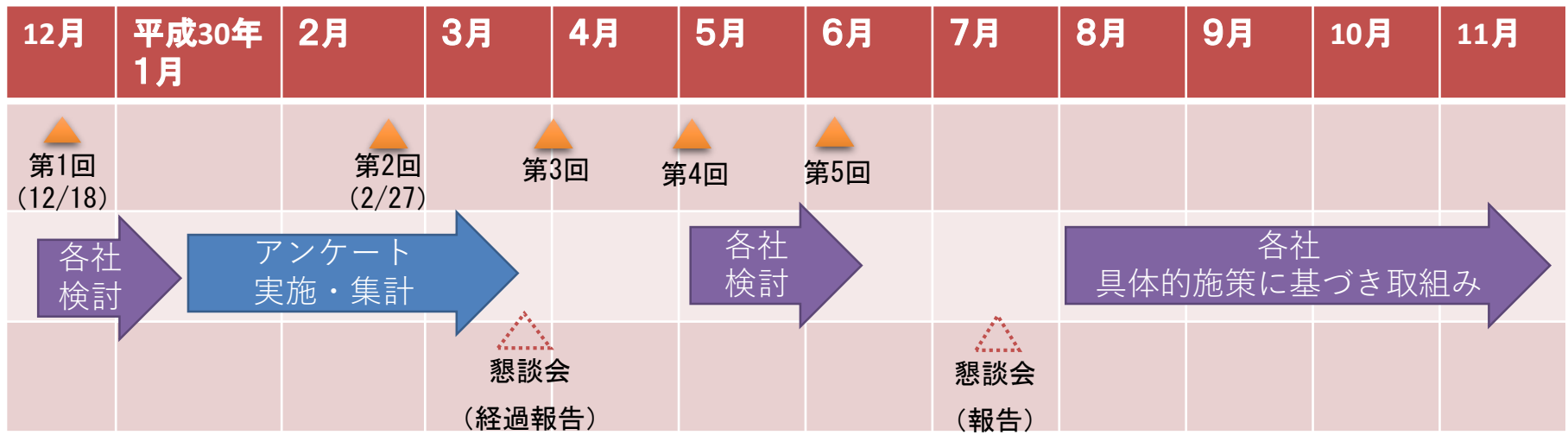
○ 今後の方針

- 引き続き、会員証券会社(分科会メンバー外も含む)の取組事例を共有
- 会員における働き方改革や女性活躍支援の現状及び課題の把握のため、全会員宛てにアンケートを実施(～2月16日)
⇒第3回会合以降、アンケート結果をもとに具体的方策の検討を行う予定

2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会

② 「働き方改革そして女性活躍支援分科会」

今後のスケジュールについて



開催予定	議事、検討事項(予定)
第1回(平成29年12月18日)	・本分科会における検討の進め方 ・メンバー会社(野村證券、大和証券)による取組事例の紹介 ・現状把握・課題洗い出しのための会員証券会社向けアンケート(案)について
第2回(平成30年2月27日)	・メンバー会社(東海東京証券、岡三証券、むさし証券)による取組事例の紹介
第3回(平成30年3月下旬～4月上旬)	・地場証券等による取組事例の紹介 ・アンケート結果報告
第4回～第5回(平成30年5月以降)	・証券業界における働き方改革・女性活躍支援の促進に向けた課題及び具体的方策について(案)
平成30年夏頃	・懇談会へ報告

2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会 ②「働き方改革そして女性活躍支援分科会」

【参考】働き方改革そして女性活躍支援分科会メンバー

主査

望月 篤（大和証券 常務執行役員）

委員

小川裕之（SBI証券 取締役経営企画部長）

木村浩樹（木村証券 代表取締役社長）

上田彰子（ゴールドマン・サックス証券 社長室長兼人事部長）

幸田博人（みずほ証券 取締役副社長）

小高 富士夫（むさし証券 代表取締役社長）

篠原徹郎（三菱UFJモルガン・スタンレー証券 常務執行役員）

高崎 のぞみ（マネックスグループ執行役CAO）

店網順子（東海東京証券 常務執行役員）

中村 かおる（ドイツ証券 審査部ヴァイス・プレジデント）

西村永良（西村証券 代表取締役社長）

西本智美（楽天証券 人事総務部 部長）

早川政博（岡三証券 取締役兼常務執行役員）

日比野 勇志（野村證券 執行役員）

フィオナ・コー（UBS証券 取締役G00）

古莊真義（SMBC日興証券 取締役）

森本幸絵（BNPパリバ証券 人事部長）

山口隆弘（山和証券 代表取締役社長）

以 上 18 名（五十音順・敬称略）

2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会

③ 「社会的弱者への教育支援に関する分科会」

○ 開催状況について

第1回 (平成29年12月20日)	・日本の子どもの貧困 【ゲストスピーカー】 首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系 教授 阿部 彩 氏
第2回 (平成30年2月19日)	1. 子どもの貧困・機会格差の根本的な解決に向けて 【ゲストスピーカー】JFEホールディングス株式会社 相談役 馬田 一 氏 (経済同友会 子どもの貧困・機会格差問題部会 部会長(当時)) 2. 証券業界が子どもの貧困問題に取り組む意義について 3. 全社へのアンケート調査(案)について

○ 主に検討された内容

- 日本の子どもの貧困
 - ー日本における子どもの相対的貧困率は13.9%(約7人に1人)とOECD諸国と比べても高水準であり、「見えない貧困」が問題となっている。
 - ー子どもの貧困を放置した場合、「貧困の連鎖」が生じ、人材の減少・市場の縮小・社会保障費の増大など社会的・経済的な影響も大きい(試算によれば社会的損失は1学年当たり約4兆円)。
- 子どもの貧困・機会格差是正に向けた証券業界における方策の可能性
 - ー子どもへの支援を行っているNPO法人等との連携
 - ー金銭的支援のみならず、証券会社が持つ資金調達に関する知見や人・場所など様々なリソースの活用

○ 今後の方針

- 会員各社における子どもの貧困問題に対する取組みの実態を把握し、好事例及び課題の共有を図るため、全会員宛てにアンケートを実施(～3月14日)
 - ⇒ 第3回会合(3月28日)以降、アンケート結果等をもとに具体的方策の検討を行う予定

2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会

③ 「社会的弱者への教育支援に関する分科会」

本分科会の検討テーマについて

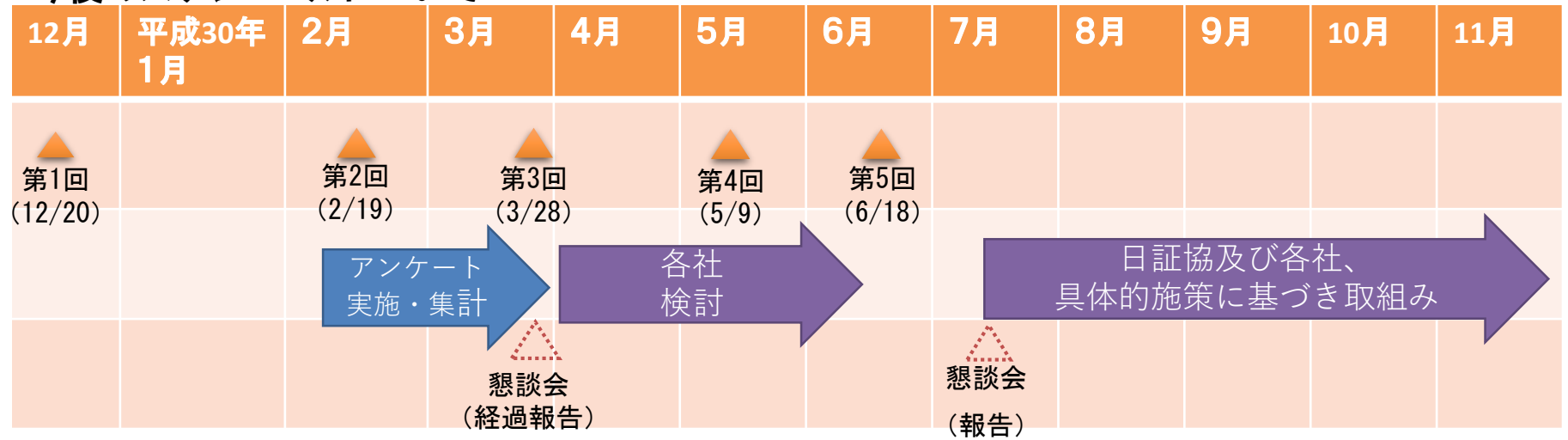
分科会検討テーマ		就学前	小学生	中学生	高校生	大学生
社会的養護下の子どもたちへの支援	家庭養護	里親、ファミリーホーム等への支援			施設等退所後の自立支援	
	育児支援	保育ヘルパー・預かり保育 家庭訪問				
生活支援	食の提供	フードバンク 子ども食堂				
	「居場所」の確保	メンター（1対1の大人の相談相手）			プログラム	
		放課後プログラム（芸術、スポーツ等の多様な体験活動）				
	基礎学力の習得支援	就学前プログラム	フリースクール・寺子屋			不登校・中退防止プログラム
教育支援	受験・進学の支援	個別指導・習熟度別指導				
					無料（低額）学習塾 バウチャー制度（教育費補助）	
					奨学金	
金融・証券教育支援委員会 検討テーマ						
	金融・キャリア教育	金融経済教育、インターンシップなど				

2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会

③ 「社会的弱者への教育支援に関する分科会」



今後のスケジュールについて



開催予定	議事、検討事項(予定)
第1回(平成29年12月20日)	・日本の子供の貧困 【ゲストスピーカー】首都大学東京 都市教養学部人文・社会系教授 阿部 彩 氏
第2回(平成30年2月19日)	・子どもの貧困・機会格差の根本的な解決に向けて 【ゲストスピーカー】JFEホールディングス株式会社 相談役 馬田 一 氏 ・証券業界が子どもの貧困問題に取り組む意義等について ・全社へのアンケート調査(案)について
第3回(平成30年3月28日)	・会員証券会社へのアンケート結果報告 ・子どもの貧困・機会格差是正に向けた証券業界における具体的方策について(案)
第4回～5回(平成30年5月以降)	・子どもの貧困・機会格差是正に向けた証券業界における具体的方策について(案)
平成30年夏頃	・懇談会へ報告

2. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会

③ 「社会的弱者への教育支援に関する分科会」

【参考】社会的弱者への教育支援に関する分科会メンバー

主査

池田 肇（野村證券 執行役員）

委員

宇田直人（UBS証券 人事部長）

岡地敏則（岡地証券 代表取締役社長）

小川裕之（SBI証券 取締役経営企画部長）

小木 紫（モルガン・スタンレーMUFG証券 エグゼクティブ・ディレクター）

菊池一広（極東証券 代表取締役社長）

小寺康之（マネックス証券 執行役員）

小林正浩（明和証券 代表取締役社長）

篠原徹郎（三菱UFJモルガン・スタンレー証券 常務執行役員）

高橋 敦（みずほ証券 常務取締役）

高橋義信（東海東京証券 執行役員）

巽 大介（光世証券 代表取締役社長）

ダニエル・ボイド（BNPパリバ証券 広報部長）

辻 朋紀（大和証券 執行役員）

野津和博（SMBC日興証券 執行役員）

藤田直介（ゴールドマン・サックス証券 法務部長）

村井博幸（岡三証券 取締役兼常務執行役員）

森田直継（カブドットコム証券 経営管理部人事G長）

以 上 18 名（五十音順・敬称略）

3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み

① グリーンボンドセミナー

1) 主催機関	国際資本市場協会 (ICMA)
2) 共催機関	日本証券業協会
3) 開催日時	11月2日 (木) 9時30分-17時30分
4) 会場	東京 虎ノ門ヒルズ 森タワー5F ホールA
5) 参加者	アジアの発行会社、銀行、証券会社、(機関) 投資家、その他の関係機関、報道機関等 約400名が参加
6) 後援	Asia Pacific Loan Market Association、投資信託協会、日本投資顧問業協会、日本取引所グループ
7) スポンサー	BNPパリバ、大和証券グループ、欧州投資銀行、みずほ証券、ムーディーズ・インベスターズ・サービス、野村グループ
8) メディアパートナー	Environmental Finance、Responsible Investor

3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み ①グリーンボンドセミナー

議論のポイント

- ▶ 世界におけるグリーンボンド・社会貢献債の発行は増加傾向
- ▶ 中国では2015年～2016年に原則を制定、その後発行が急増している
- ▶ 日本では経済規模に対してまだ市場規模は小さい
 - 2016年12月に東京都が環境サポーター債を発行(100億円相当)
 - 2017年に東京グリーンボンド発行
 - 10月 機関投資家向け 100億円
 - 12月 個人投資家向け 100億円相当
- ▶ セミナー前日に戸田建設が12月頃発行予定と公表(一般事業法人では初)
 - 100億円 五島列島に作る洋上風力発電施設建設
- ▶ 原則・ガイドラインの発表により、グリーンボンド・社会貢献債発行における
分かりやすさ、透明性、取り組みやすさ(コストと事務負担軽減)に資する
- ▶ 課 題:発行体における財務部門とCSR部門との断絶、トップダウンの必要性

3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み

①グリーンボンドセミナー

1. 開会／閉会挨拶等

- ▶ 歓迎・開会挨拶：日本証券業協会 会長 鈴木 茂晴
- ▶ 歓迎基調講演／閉会挨拶：
国際資本市場協会(ICMA) チーフ・エグゼクティブ マーティン・シェック
- ▶ 閉会基調講演：
マレーシア証券委員会 コーポレートファイナンス&インベストメンツ マネージング・ディレクター / ASEAN資本市場フォーラム グリーンファイナンス・ワーキンググループ
共同議長 ユージーン・ウォン 氏

2. 基調講演

- ▶ 東京都知事 小池 百合子 氏
- ▶ 環境省 大臣官房 環境経済課 課長 奥山 祐矢 氏
- ▶ 上海グリーンファイナンス委員会 事務局長 コン・ウェイ 氏
- ▶ 経済協力開発機構(OECD) 事務次長 河野 正道 氏
- ▶ アジア開発銀行 持続的開発・気候変動局 局次長 兼 CCO ネシム・ジェイ・アフマド 氏



3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み

①グリーンボンドセミナー

3. パネルディスカッション

テーマ	モデレーター／パネリスト
GBP(グリーンボンド原則)ー最近の発展と 2017年～2018年の展望	モデレーター: 国際資本市場協会(ICMA) 市場慣行及び規制政策担当ディレクター ピーター・ムンロ パネリスト: メルリンチ日本証券 取締役 副会長 林 礼子 氏 みずほ証券 プロダクツ本部 シニアプライマリーアナリスト 香月 康伸 氏 BNPパリバ サステナブル・キャピタル・マーケット ヘッド ステファニー・スファキアノス 氏 三菱東京UFJ銀行 ストラクチャードファイナンス部 プロジェクト環境室 室長 山崎 周 氏 Mirova シニア・ポートフォリオ・マネージャー クリス・ウィグレイ 氏
日本市場ー実績と展望	モデレーター: 世界銀行 財務局 駐日代表 有馬 良行 氏 パネリスト: 日本政策投資銀行 財務部長 加藤 裕幸 氏 日本生命保険 取締役 執行役員 大関 洋 氏 モルガン・スタンレーMUFG証券 資本市場統括本部 債券資本市場部長 マネージング ディレクター 荻原 正典 氏 大和証券 デット・キャピタルマーケット部 海外オリジネーション課 兼 オリジネーション課 次長 徳田 健 氏

3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み

① グリーンボンドセミナー

グリーンボンド市場の将来のダイナミズム

モデレーター：気候債券イニシアティブ CEO兼共同創業者 ショーン・キドニー 氏
パネリスト：

クレディ・アグリコル・CIB クライメイト&グリーンボンド・リサーチ ヘッド
エルワン・クリヘレット 氏

大和総研 調査本部 主席研究員 / JSIF 代表理事 河口 真理子 氏

国際金融公社(IFC) フィナンシャル・インスティテューション・グループ

チーフ・インベストメント・オフィサー ジャンマリー・マッセ 氏

欧州投資銀行(EIB) ユーロ・ファンディング 副ヘッド アルド・ロマーニ 氏

中国グリーンファイナンス委員会 副事務局長 ワン・ヤオ 氏

社会貢献債及びサステナビリティ債市場の潮流

モデレーター：国際金融公社(IFC) インベスター・リレーションズ・ヘッド
エッセー・デニス・オダロ 氏

パネリスト：

ノルデア サステナブル・ファイナンス ヘッド サーシャ・ベスリック 氏

国際金融ファシリティ(IFFIm) 理事長 ルネ・カーセンティ 氏

PRI 事務局 ジャパンヘッド グローバルネットワーク&アウトリーチ 森澤 充世 氏

国際協力機構(JICA) 財務部 市場資金課 課長 田中 賢子 氏

野村證券 デット・キャピタル・マーケット部 ESG債担当部長 シニアオフィサー
相原 和之 氏

外部評価ーアジアにおける現行実務及び市場の見通し

モデレーター：国際資本市場協会(ICMA) アジア事務所代表 ムスターク・カパシ
パネリスト：

日本総合研究所 理事 創発戦略センター/ESGリサーチセンター 足達 英一郎 氏

ムーディーズ アジア大洋州コーポレート・パブリック・プロジェクト&インフラストラク

チャー・ファイナンス マネージング・ディレクター ブライアン・ケーヒル 氏

サステイナリティクス 機関投資家関係担当取締役 ジェームズ・ホリラック 氏

新日本有限監査法人 気候変動・サステイナビリティサービス ヘザー・マクリシュ 氏

気候債券イニシアティブ CEO兼共同創業者 ショーン・キドニー 氏

3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み

②アジア証券人フォーラム（ASF）年次総会

1) 開催期間	平成29年11月26日(日)～28日(火)
2) 会場	東京 ホテルニューオータニ
3) 会議テーマ	Ways for building a sustainable future (持続可能な未来を構築する)

4) 総会の概要

- ◆ 今回の総会には、アジア(2機関)、オーストラリア、中国、台湾、香港、インド(2機関)、インドネシア、イラン、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、ニュージーランド、フィリピン、タイ(2機関)、トルコ、ベトナム(2機関)の17か国・地域21機関から49名が出席した。
- ◆ 越智 隆雄 金融担当副大臣、日本取引所グループの清田 瞭 CEO及び日本銀行の黒田 東彦 総裁が基調講演を行い、アジア開発銀行研究所の吉野 直行 所長がアジアの経済・金融資本市場を概観する基調プレゼンテーションを行った。
- ◆ パネルディスカッションには、ASFメンバーのほか関係業界団体(国際銀行協会(IBA)、グローバル金融市場協会(GFMA)、米国証券業金融市場協会(SIFMA))、国連広報センター、投資家教育国際フォーラム(IFIE)、国内のシンクタンク、フィンテック企業、機関投資家がパネリストとして参加した。
- ◆ パネルディスカッションでは、「持続可能な経済・社会に向けて証券市場が果たすべき役割」についても意見交換が行われた。同パネルディスカッションの概要は17頁のとおり。

3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み ②アジア証券人フォーラム(ASF)年次総会

平成29年11月28日(火)

パネルディスカッションⅡ：アジアの未来：持続可能な成長への証券市場の貢献

モデレーター：川村 雄介 自主規制会議委員／大和総研 副理事長

パネリスト： 根本 かおる 国連広報センター 所長
ムスターク・カパシ ICMA アジア太平洋地域事務所 事務局長
チャンジオン・オウヤン SAC(中国) 副会長
ナリンダー・ワドゥワ ANMI(インド) 理事

主な内容

- 国連では「持続可能な開発目標(SDGs)」を採択し、2030年までの達成に向け、誰も置き去りにしないことをスローガンに加盟国の取組みを求めている。これは途上国に限られた問題ではなく、すべての国が取り組むべき課題であると同時に企業も含むマルチステークホルダーの全員参加型での推進が求められる。金融・証券界が社会的課題の解決を資金の面から協力に下支えしていくことを期待している。
- 資本市場は環境や社会的課題に対する資金提供という側面でこれに貢献できる。ICMAは、グリーンボンドやソーシャルボンドへの投資を促進するには、発行体・投資家が受け入れられる基準・原則を定めることが不可欠であると考え。年金基金等機関投資家の社会的責任に対する関心も高まっており、ESGに関連したビジネスは新しい成長の源泉や長期投資の機会となりつつある。
- 経済成長と社会・環境への配慮の両立のため、中国ではベンチャー・中小企業支援、グリーンボンドの発行を含むグリーン金融システムの構築、2020年までの貧困脱却、投資者教育・保護政策を推進している。
- インドは、国連のSDGsに貢献するとともに、それに先駆けて経済成長、社会包摂、環境保護の観点から国内政策を実施してきた。PMJDY(世界最大規模の金融包摂プログラム)、Skill India(4億人の能力開発イニシアチブ)、SBA(クリーンインド計画)等のプログラムを実施し、雇用創出・環境保全にも野心的な目標を立てて取り組んでいる。

3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み
③日本証券サミット

1) 開催期日	平成30年2月7日(水)	
2) 会場	米国 ニューヨーク SIFMAカンファレンス・センター	
3) 共催機関	米国証券業金融市場協会	
4) 参加者	約230名	
5) 今回のポイント	今回のイベントでは、日米の金融資本市場関係者を中心とする懇談会(ラウンドテーブル・ディスカッション)を開催したほか、これに続くセミナーでは、基調講演・プレゼンテーション及び2つのパネル・ディスカッションがおこなわれた。 ■ スピーカーとして、日本の財務省、金融庁、日本銀行、日米の証券・金融業界、学界の参加・協力を得た。また、麻生太郎副総理・財務大臣兼金融担当大臣からメッセージが寄せられた(イベントガイドに掲載)。 ■ 日米の証券会社、金融機関、機関投資家、情報ベンダー、報道機関等から約230名が来場した。 ■ また、本イベントと合わせて、本協会会員会社等15社の方々の参加を得て、米国の金融機関、証券業界団体、シンクタンク、取引所、報道機関を訪問するツアーを実施した。	
6) 当日の様様		

3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み

③ 日本証券サミット

13:00	登録／コーヒー・サービス
13:30	歓迎の辞 米国証券業金融市場協会(SIFMA) President and CEO ケネス・ベンツェン氏
13:35	開会挨拶 日本証券業協会 会長 鈴木 茂晴
13:40	ゲスト・スピーチ1 在ニューヨーク総領事・大使 高橋 礼一郎 氏
13:45	基調講演1「日本の経済と金融の好循環の実現」 金融庁長官 森 信親 氏
14:05	基調プレゼンテーション & パネル・ディスカッション1:「日本経済:持続的成長に向けた道のり」 リードスピーカー/パネリスト:国際通貨基金副専務理事 古澤 満宏 氏 モデレーター:コロンビア大学ビジネススクール日本経済経営研究所ディレクター アリシア小川 氏 パネリスト:財務省 大臣官房審議官(理財局担当) 古谷 雅彦 氏 パネリスト:日本銀行 米州統括役 神山 一成 氏 パネリスト:野村證券インターナショナルマネージング・ディレクター米国担当チーフエコノミスト ルイス・アレキサンダー氏
15:25	コーヒー・サービス
15:45	ゲスト・スピーチ2「持続可能な開発目標(SDGs)のためのファイナンス」 国際連合 事務総長室 戦略企画・モニタリング部門 ディレクター 鈴木 彩果 氏
16:05	基調講演2「日本の株式市場とJPXの取組について」 日本取引所グループ グループCEO 清田 瞭 氏
16:20	パネル・ディスカッション2:「日本の資本市場:求められる役割と機能向上のための方策」 モデレーター:国際銀行協会 事務局長 ポール・ハンター 氏 パネリスト:アジア開発銀行研究所 エコノミスト 根本直子 氏 パネリスト:ゴールドマン・サックス(US) マネージング・ディレクター 環境市場ヘッド キュン・アー・パク 氏 パネリスト:大和証券 専務取締役 田代 桂子 氏 パネリスト:フィデリティ・インスティテューショナル・アセット・マネージメント プレジデント ジュディ・マリンスキー 氏
17:30	ネットワーキング・レセプション

3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み ③日本証券サミット

15:45- ゲスト・スピーチ:「持続可能な開発目標(SDGs)のためのファイナンス」
16:05 鈴木 彩果 国際連合 事務総長室 戦略企画・モニタリング部門 ディレクター

- 主な内容**
- 国連において、持続可能な開発目標(SDGs)の企画・策定・実施モニタリングに携わる鈴木氏が、モハメド副事務総長に代わり、以下の概要のゲストスピーチを行った。
- 国連の加盟国は、2015年に健康、教育、雇用、食料、気候変動、エネルギー、インフラ、持続可能な都市等をテーマとする17のゴールから成るSDGsを採択し、2030年までの達成を目指している。
 - 各加盟国政府はその達成にコミットしており、国連も他の主体とともにこれを支援していく。
 - SDGsは、政府及び公的セクターの努力だけでは達成できない。民間レベルのサポートが不可欠であり、証券業界の貢献も期待されている。
 - 特に、グリーンビジネスへの投資、グリーン・エコノミーは民間企業にビジネス機会を提供し、気候変動対策を支える原動力となる。
 - SDGsの達成には数兆ドルの資金が必要であり、国連では、SDGsビジネスフォーラムやSDGs投資フェアの開催を通じ、持続可能な開発に必要な民間資金の調達を促進している。
 - 巨額の運用資産を保有する国際的な機関投資家が一層ESGに配慮した投資を行うことを期待するとともに、これを支える格付け機関や取引所の役割も重要である。
 - 安倍総理のリーダーシップによる日本政府の取組みは印象的であり、今後GPIFによるESG関連投資の拡大等を通じ、日本におけるインパクト投資やグリーンボンド市場が更に拡大することを期待する。

3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み ③日本証券サミット(国連日本政府代表部訪問)

国連代表部 別所大使との面談

日 場 先 当	時 所 方 方	2018年2月7日(水)午前9時50分～10時5分 国連日本政府代表部 応接室 別所大使、加藤一等書記官 鈴木会長、森本副会長、川村大和総研副理事長、田代大和証券グループ本社専務執行役、石倉執行役、成松審議役、西村SDGs推進室長
------------------	------------------	--

面談概要	鈴木会長より、NYにおける日本証券サミット開催の趣旨や証券業界におけるSDGs推進に関する取組みについて説明を行った。 その後、別所大使より、日本の民間におけるSDGsの取組みが非常に活発化していることは非常に有難く、各企業の取組みがグッドプラクティスとして共有化され日本全体のSDGsへの取り組みが推進されることを期待する旨の話があった。 また、SDGsの大きなテーマの一つである女性活躍推進に関しては、国連自らも積極的に取り組んでおり、現状、日本の国連職員の3分の2が女性であり、女性にとっては非常に活躍できる機会が提供されている旨の話があった。
------	--

3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み ③ 日本証券サミット(国連副事務総長との面談)

アミーナ・モハメド国連副事務総長との面談

日	時	2018年2月7日(水)午前10時50分～11時20分
場	所	国連副事務総長オフィス 応接室
先	方	アミーナ・モハメド副事務総長、鈴木戦略企画・モニタリング部門 ディレクター、小野上級経済担当官、ルイーザ・カースト経済社会局アソシエイト・オフィサー
当	方	鈴木会長、森本副会長、川村大和総研副理事長、田代大和証券グループ本社専務執行役、石倉執行役、成松審議役、西村SDGs推進室長

- 面談概要**
- 鈴木会長より日本証券サミット開催の趣旨や開催に当たっての国連の協力への謝辞を述べた後、西村SDGs推進室長より、証券界におけるSDGs推進への取組みの進捗状況について報告を行った。
 - 本協会の取組みに関するモハメド副事務総長の主な発言は以下のとおり。
 - ① 「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」
グリーンボンドの発行促進は、気候変動対策の重要なツールである。現在、各国の民間セクターにおいてグリーンボンドが発行されているが、個々のプロジェクトに対するファイナンスの規模が小さいと感じている。UNDPが各国政府のサポートの連携を図っているが、各国政府と民間が連携して、より規模の大きなファイナンスが可能となることを期待している。ソーシャルボンドについては、世銀が2017年3月に起債したSDGsボンドが非常に良い事例であろう。
 - ② 「働き方改革そして女性活躍支援分科会」
非常に重要なテーマであり、企業の投資や政策の在り方を変えることにより、女性に限らず将来を担う次世代にインセンティブを与えて欲しい。

3. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み ③ 日本証券サミット(国連副事務総長との面談)

アミーナ・モハメド国連副事務総長との面談 (続き)

面談概要 ③ 「社会的弱者への教育支援に関する分科会」

子供の貧困問題は①のテーマとも関連するものであり、アフリカや東南アジアでは、子供の栄養不足が最も問題となっており、それらの国々ではまずは栄養プログラムを実施している。ただ、貧困からの脱却には教育も非常に重要であり、教育をサポートする取組みを評価する。

- ④ 今後もファイナンスに関しては、政府や民間が連携して取り組むべき余地は沢山ある。ファイナンスの規模が大きくなり投資が促進されることで、民間企業のSDGsの取組みがより一層進むだろう。



(出所: 国際連合ウェブサイト)